

## 国産材の魅力は歴史と実績に裏付けられた確かな価値、その不変的な価値や加工、デザインなど付加価値が必要

—国産石材の最近の状況を教えてください。(国産石材の動向や傾向、よく売れている石種、また力を入れている石種は)

墓石市場全体が縮小し、建立本数が減少していく中で、より高付加価値な商品の提案を望まれる小売店が増えています。

そうした中で、国産材は「歴史」と「実績」に裏付けされた確かな価値があり、販売に力を入れられる小売店が増えてきていると実感しています。当社の国産材比率は約4割です。

良く売れている石種は、大島石、庵治石、天山石、万成石、北木石になります。

中でも大島石は、西日本エリアでは人気、実績とも群を抜いていますし、当社も大島石の仕入力、加工力、供給力、提案力には自信を持っています。

近年では人気上昇中の天山石も引き合いが多く、幅広く取り扱いをしており、小売店のニーズにあった提案が可能です。

—工場の稼働状況や営業展開(オンライン営業、対面営業など)はどのようにですか。

工場の稼働状況ですが、国内、中国共にほぼフル稼働しております。

営業展開では、毎年春と秋に開催してきて展示会が昨年より開催できていない中、オンラインセミナーを定期的に開催しています。毎回多くの方にお申し込みをいただき、卸売業として情報提供の重要性と必要性を感じています。

—国産石材の現在の取り組み、今後の計画(戦略)や展望(試み)を教えてください。

「価格競争」より「価値競争」の時代において、国産材の可能性はまだまだあると思っています。その為には、国産材という価値に、例えば「加工」や「デザイン」など新たな価値を掛け合わせることで、その可能性が広がると考えています。

また、製造を担う採石業者と加工メーカー、販売を担う小売店が“製販一体”となって同じ目線、同じ意識を持って取り組むことが何より大切だと感じます。当社もその一員として、社会にとって本当に価値ある商品・サービスの開発・提供を続けていく所存です。



洗練された技術が求められる国内加工風景



国産材にデザインの付加価値を加えた「和モダンシリーズ」